

単元名

子ども町並みガイドをしよう

令和3年12月2日(水)
14時20分～15時05分
男子10名 女子9名
計19名

1 単元について

このような単元です

- 子どもたちは、1学期の学習の「ふるさと音戸守り隊！～舟唄～」の学習をして、郷土の文化や伝統について考えてきた。本単元の学習は、「わたしたちは、地域とどう関わることができるだろうか」という本質的な問いをもたせ、今までに学習した郷土の文化や伝統をさらに広げて、郷土の町並みや名所・旧跡などについて理解を深めたり、魅力を感じたりする契機となる。育てたい資質・能力「地域の一員として関わる力」を重点的に培うことに適した単元である。
- 相手意識や目的意識を明確にして課題意識をもち、協働的に情報収集したり、表現したりするなど、子どもたちの主体的な探究活動を促していくことに適した単元である。

このような児童です

- 「音戸守り隊！～舟唄～」の学習の中で、グループで新聞にまとめたり、学習発表会で表現したりすることにより、郷土の文化や伝統についての理解は、ある程度深まってきた。
- 「日招き伝説」や「音戸の舟唄」などを調べるために、音戸観光文化会館「うずしお」の展示物を見たり、パンフレットや図書を参考にしたりして、情報を収集する経験をしてきたが、必要な情報を関連付けたり、それをグループで協力してまとめたりすることには課題がある。
- 郷土の町並みや名所・旧跡などは、今まで生活の中でほとんど意識したことはない。

だからこのような授業をします

【探究的な見方・考え方を働かせるための各教科等との関連】

- 社会科「県内の文化財や年中行事」の学習と関連させて、地域の良さを考え、郷土を大切にしようとする心情を培っていく。
- 国語科「調べたことをほうこくしよう」と関連させて指導し、相手や目的に応じて資料を用いながら、筋道を立てて話す力を身に付けていく。

【児童が自ら問いを見出すためのしかけ】

- 新しい先生に「音戸の町並みを案内しよう」という単元のゴールを設定し、目的意識や相手意識をもてるように学習を進めていく。
観光ボランティアガイドや地域の方と連携し、多様な情報の収集の仕方を身に付けさせたりガイドのコツを聞いたりしてガイド内容をまとめることに慣れさせていく。

2 単元の目標

- 音戸の町並みや名所・旧跡などのいわれを探究する活動を通して、郷土の魅力や歴史的価値を知り、郷土への愛着を深めるとともに、これからの生活の中で人に伝えたり、広めたりしようとする意欲を培う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
		協働的に関わる力	地域の一員として関わる力
① 自然・環境・伝統に関する学習過程において課題の解決に必要な知識・技能を身につけ、それらを守り受け継ぐ人々の努力や工夫に気付き、探究的な学習のよさを理解する。	① 情報を比較したり、関連付けたりしながら分析し、整理することができる。	① 他者とコミュニケーションをとりながら、協働して課題を解決することができる。	① 学んだことを自分の生活や地域(音戸)のために生かすことができる。

4 ルーブリック評価の記述

	思考力・判断力・表現力	協働的に関わる力
A	・収集した情報を交流し合って比較したり、関連付けたりしながら分析して、名所や旧跡同士が関わり合っていることに気付き、目的に応じて整理することができる。	・他者とコミュニケーションをとりながら、協働して意欲的に課題を解決することができる。
B	・収集した情報を交流し合って比較したり、関連付けたりしながら分析して、目的に応じて整理することができる。	・他者とコミュニケーションをとりながら、協働して課題を解決することができる。
C	・友達の意見を聞いて、収集した情報を交流し合って比較したり、関連付けたりしながら分析して、整理することができる。	・他者とコミュニケーションをとりながら、協働して友達と一緒に課題を解決することができる。

5 指導計画（全15時間）

次 (時)	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）				
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度		
一 (6)	<p>課題の設定</p> <p>○ 前単元の学習を思い出して音戸にあるもの・ことについて知っていることを考え、学習課題をもっている。</p> <p>・ 音戸にあるもの・ことについて知っていることを書き出し、「音戸旧道ぶらぶらマップ」を見ながら町を散策し、学習課題をもつ。</p>	<p>・知①(ワークシート, 発表)</p>	<p>・思①(行動観察, ワークシート分析)</p>	<p>○協①(行動観察, ワークシート分析, ルーブリック評価の記述)</p>		
4	<p>情報収集</p> <p>○ 主体的に資料から情報を集めようとしている。</p> <p>・ 「音戸旧道ぶらぶらマップ」や「わがまちの歴史と伝説」から、情報を集める。</p>				<p>○思①(行動観察, ワークシート分析, ルーブリック評価の記述)</p>	<p>・協①(行動観察, ワークシート分析)</p>
1	<p>整理分析</p> <p>○ 資料から得た情報を旧跡や名所別に分析し、関連付けて整理している。</p> <p>・ これまで収集したもの・ことを分析し、関連付けて整理する。</p>				<p>○思①(行動観察, ワークシート分析, ルーブリック評価の記述)</p>	<p>・協①(行動観察, ワークシート分析)</p>

<p>二 (4) 1</p>	<p>新たな課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 旧跡や名所の中からガイドしたいものをグループで話し合っ決めて決めることができる。【本時】 ・ 新しい先生にガイドしたいものをグループで話し合っ決めて決める。 <p>情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティアガイドさんと一緒に散策し、インタビューし情報を集めようとしている。 ・ ガイドしたいことをボランティアガイドさんと一緒に散策し、新たな課題に対する情報を集める。 <p>まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報の中から整理してガイド原稿を考えている。 ・ 情報の中から整理してガイド原稿を作る。 	<p>知① (ワークシート, 行動観察)</p>	<p>○思① (行動観察, ワークシート分析, ルーブリック評価の記述)</p> <p>・思① (行動観察, ワークシート分析)</p> <p>○思① (行動観察, ワークシート分析, ルーブリック評価の記述)</p>	<p>・地① (行動観察, ワークシート)</p> <p>○協① (行動観察, ワークシート, ルーブリック評価の記述)</p> <p>・協① (行動観察, ワークシート分析)</p>
<p>三 (5) 1</p>	<p>新たな課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 町並みガイドをするために、どんなことを用意したらいいか考えている。 ・ 町並みガイドをするために、計画を立てる。 <p>整理分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ガイドしたいことをグループで整理し、自分にできることを考えてまとめようとしている。 ・ ガイドしたいことをタブレットに整理し、自分にできることを考えて原稿にまとめる。 <p>まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 原稿をもとに、ガイドの練習をし、新しい先生にタブレットを使ってガイドすることができる。 ・ 原稿をもとに、ガイドの練習をし、新しい先生にタブレットを使ってガイドする。 		<p>・思① (行動観察, ワークシート分析)</p> <p>○思① (行動観察, ワークシート分析, ルーブリック評価の記述)</p> <p>・思① (行動観察, ワークシート分析)</p>	<p>○協① (行動観察, ワークシート, ルーブリック評価の記述)</p> <p>・協① (行動観察, ワークシート)</p> <p>○協① (行動観察, ワークシート, ルーブリック評価の記述)</p>

6 本時の目標（本時7/15）

整理したものをもとに、ガイドしたい場所を理由を付けて決めることができる。

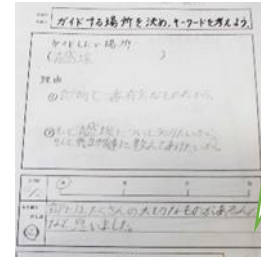
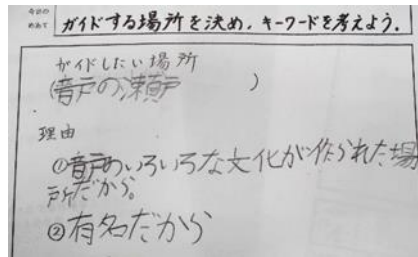
7 本時の展開

主な学習活動と児童の反応（・）	指導上の留意点（◇） 評価規準（◎）
1 本時のめあて・課題を確認する。	◇ 散策した名所・旧跡を想起する。
㊦ 新しい先生に町並みをガイドする場所を決め、キーワードを考えよう。	
<p>2 調べたことをグループで紹介し合い、ガイドしたいところを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引地の町並み ・からわかべ ・清盛祭 ・音戸市民センター ・梵潮寺 ・もとの銀行 <p>3 自分が町並みガイドしたい場所を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清盛塚をガイドしたい。理由は、音戸の瀬戸のことと関係があるから。 ・引地の古い町並みをガイドしたい。理由は、この町は100年以上前の建物が並んでいるところだから。 ・音戸の渡船をガイドしたい。理由は、渡船があるところはここしかないから。 ・音戸大橋をガイドしたい。理由は、音戸大橋ができて今年が60年目の記念の年だから。 ・音戸まちづくりセンターをガイドしたい。理由は、オリンピックが行われた国立競技場を作った隈研吾さんが作ったところだから。 <p>4 全体で、ガイドしたい理由を見て、共通点を見つけ、ガイドしたい場所のキーワードを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古い建物なので残しておきたい音戸 ・大切にしたい音戸の瀬戸 ・いつまでも残る音戸 ・今年しかできないから。 <p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>◇ 前時までに調べたことを簡単に紹介させ、全部の名所・旧跡を聞いた後で、ガイドしたい場所と理由を個人でワークシートに書かせる。</p> <p>◇ 友達の紹介した中から、ガイドしたい場所と理由をまとめるように促す。</p> <p>◇ ガイドしたい理由の発表を聞いて、共通点を確認し、「自分たちならではの思い」が伝わるキーワードを考えさせる。</p> <p>◇ どうしてもガイドしたいもの・すべきものを考え、旧跡・名所が音戸の瀬戸とつながっていることを理解させ、ガイドする場所を選ばせる。</p> <p>◎ 収集した情報を交流し合って比較したり、関連付けたりしながら分析して、目的に応じて整理することができる。</p>
㊧ 音戸に大切に残しておきたいもの 自まんしたいもの ほこれるもの 音戸の瀬戸に関わるもの	
6 振り返りをする。	◇ みんなで話し合い、比べたりまとめたりして意見が言えたか振り返らせ、次の時間の学習意欲へとつなげる。

8 板書計画

④ 新しい先生にガイドする場所を決めよう。							
写真 音戸大橋	渡船	市民センター	音戸の瀬戸	清盛塚	引地の町並み	うずしお会館	銀座街
めずらしいらせん型 できて 60 年目	日本一短い航路 船	隈研吾 国立競技場を作った人	大きな船が行き来する水道	音戸の瀬戸を切り開いた記念ひ	古い建物がたくさん続いていた	清盛祭や音戸の舟唄のてんじ	明治時代の大きい建物
⑤ 今年したらいい場所 音戸に残しておきたいもの 音戸の瀬戸に関わるもの ほこれるもの							
⑥							

9 児童の様子



音戸には
たくさんの
大切なもの
があるんだ
なと思いま
した。

10 単元で育成を目指す資質・能力に係る成果と課題

(1) 成果

- 人々の努力や工夫に気付くことができるよう、これまでの学習を想起する場面を繰り返し設定したり、タブレット等を活用したりしながら見慣れている音戸町の名所や旧跡を調べる場面を設定したりした。これらのことから、学習のまとめや振り返りには、「これまで何年もかけて守り受け継いできた人々がいる」「守るためにたくさんの苦労や工夫があった」等の気付きや理解に係る発表や記述が見られた。(知識・技能)
- 「音戸の町並みを案内しよう」という単元のゴールに向けて、児童自ら「問い」を見いだすしかけを設定し、単元を構成した。児童が、自分が町並みガイドをしたい場所やものについてグループで話し合っ決めて活動では、その場所を選んだ「理由」や「共通点」に着目し、収集した情報を交流し合っ比較したり、関連付けたりしながら整理し、決めることができた。また、共通点を考える活動を設定したことで、児童自ら「問い」を見直すことができ、次への学びへとつなげることができた。(思考力・判断力・表現力)
- グループ学習では、児童が協働して問題を解決する有用性を味わうことができるよう、目的意識や相手意識を明確にして活動できるようにした。また、タブレット端末を活用することで、一人一人が自分の考えをもつことができた。また、グループで互いの考えの共通点や相違点を考える場を充実させるうえでも効果的であった。さらに、原稿にまとめたり、実際にガイドを行ったりする際にもタブレット端末を活用することで、協働して課題を解決する手段としても効果的であった。(協働的に関わる力)
- 児童は、1学期に音戸の舟唄について学習し、その延長として、音戸の史跡・名所を調べるという投げかけから興味を持って学習に取り組んでいた。市民センターにある『ぶらぶらマップ』を導入に使うことで、見てみたい場所が自分の地域にいっぱいあり、興味付けになった。また、たくさん「古い物が残されていること」「知らなかった物があること」に気付くなど、学んだことを自分の生活や音戸の地域のために生かそうとすることができた。国語科「ふるさとの食」や社会科「文化財」、道徳科「大いちょうの木」などと関連付けて学習することで、地域にたくさんの文化財があることに気付き、今まで先人が守って残してきたものを大事にしていきたいという気持ちを持つようになった。(地域の一員として関わる力)

(2) 課題

- 単元を貫く問いを常に意識できるよう、単元構想図の掲示などを工夫して、新しい先生にガイドするまでに調べたり、原稿を書いたり、ガイドの練習をしたり、ガイドしたりしたことを視覚的に振り返ることができるようにすれば、より探究的な学習のよさを理解できるようになるとともに、情報の比較・整理・分析等に効果的に活用できた。
- 何について思考するのが曖昧になっていたことで、ペアやグループでの活動が焦点化できない場があった。より協働的に問題を解決する場を充実させることにつなぐために、活動の意図をはっきりさせる必要があった。
- 教材研究のために、夏休みに校区巡りを行った。今後はその内容を全職員で共有するとともに、総合的な学習の時間のワークシートの作り方や使い方、単元の進め方などの全体研修を行い、今後の単元開発に生かしていきたい。また、中学生や高校生との連携を視野に、今後の教材開発を進めていきたい。